

V SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成

1 まちのシンボルとなる「顔」づくり



◆ 高塔山の魅力づくり

県内でも有数のあじさいを誇る高塔山山頂において、毎年6月に、「若松あじさい祭り」を開催しています。また、毎年、地元の小中学生と民間のボランティア、行政が協働して、あじさいの植樹に取り組んでいます。



【問い合わせ先：総務企画課 TEL 771-3559】

◆ 若戸大橋ライトアップ

新たな夜景観光スポットの創出により、周遊観光の促進や宿泊者の増加に向けた夜型観光の魅力を高めるとともに、若松・戸畑エリアの街のにぎわい創出を目指して、平成30年12月1日から若戸大橋のライトアップを行っています。

令和4年8月、日本夜景遺産[®]に認定され、日本新三大夜景都市全国1位の北九州市を代表する夜景スポットになっています。



点灯時間： 4月～9月 19時～22時
10月～3月 18時～22時
原則、毎日点灯

【問い合わせ先：産業経済局観光課 TEL 551-8150】

◆ 高塔山のアクセス道路の整備

現在の道路幅員が5m程度と狭いため、歩行者が山頂まで安心して登れる3mの歩道とバスなどの大型車もスムーズに通行できる7mの車道の整備を進めています。

【問い合わせ先：建設局西部整備事務所工務第一課 TEL 642-5411】

◆ 高塔山の夜景PR

日本夜景遺産[®]に認定された高塔山からの夜景（キャッチコピー『河童の隠した宝石箱』）を、高塔山のパンフレットの作成等、様々な方法でPRしています。

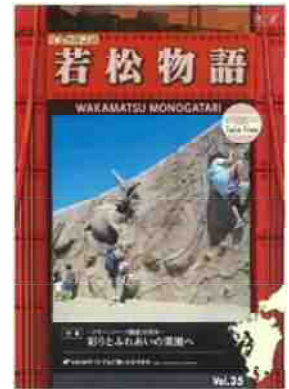
【問い合わせ先：総務企画課 TEL 771-3559】

2 訪れたいくなるまちづくり



◆ 若松プロモーション

若松区民を含め、市内外の多くの人に若松の魅力を知っていただくため、季刊情報誌「若松物語(フリーペーパー)」の発行や、若松ガイドマップ、若松のお土産等のリーフレットの作成、ホームページ、SNS (Facebook、Instagram、Youtube)での情報発信、マスコミ等に対するパブリシティ等に取り組んでいます。



詳細：北九州市ホームページ「若松物語」

→ <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/wakamatsu/w4100112.html>

【問い合わせ先：総務企画課 TEL 771-3559】

◆ 区の特徴や魅力をアピールできる集客イベントの展開

若松区では、6月に「若松あじさい祭り」、7月に「くきのうみ花火の祭典」、若松の郷土芸能である五平太ばやしが披露される「五平太まつり」、かっぱ祭りやたいまつ行列からなる「火まつり行事」が開催されます。

また、10月に「わかまつおしごとパーク」や各種ステージイベントが行われる「若松みなと祭り」など、中心市街地活性化の目的で民間団体等が行うにぎわいづくりイベントに対して、開催を支援しています。

詳細：北九州市ホームページ「区の行事・まつり」

→ http://www.city.kitakyushu.lg.jp/wakamatsu/menu24_0017.html



【問い合わせ先】

『若松あじさい祭り・くきのうみ花火の祭典』 総務企画課

TEL 771-3559

『火まつり行事』 若松区自治総連合会

TEL 761-0948

『若松みなと祭り』 若松まつり行事協賛会(北九州商工会議所若松サービスセンター内)

TEL 761-2021

◆ クルーズ船誘致事業

クルーズ船の本格的な運航再開を見据え誘致活動を実施します。

引き続き船社や関係者と連携しながら、感染拡大防止策を徹底し、乗客の皆さま、市民の皆さまにとって、安全・安心なクルーズ船の受入を行います。



セレブリティ・ミレニアム(入港歓迎)

2019年9月25日(水)

【問い合わせ先 港湾空港局クルーズ・交流課 TEL 321-5939】

◆ 第60回九州実業団毎日駅伝競走大会

本城陸上競技場を発着点として若松区の響灘沿岸を周回するコース（7区間約80キロ）で開催されます。今年の開催日は11月3日（金・祝）。大会は元日に開かれる全日本実業団対抗駅伝（ニューイヤー駅伝、群馬）の予選を兼ねており、上位8チームが出場権を獲得します。

【問い合わせ先】

九州実業団毎日駅伝事務局 TEL 883-8155
市民文化スポーツ局スポーツ振興課 TEL 582-2395

◆ おもてなしの道づくり

若松区への来訪者が多い国道495号（浜町三丁目交差点～安瀬交差点）において、来訪者へのおもてなし等を目的に、中央分離帯や緑地帯に花苗の植栽を行っています。



【問い合わせ先:まちづくり整備課 TEL 761-5326】

◆ 中央分離帯の防草対策

雑草が生い茂った中央分離帯に防草対策を兼ねた舗装を施し、交通安全の確保と景観維持に取り組んでいます。



【問い合わせ先:まちづくり整備課 TEL 761-5326】

3 郷土への誇り（郷土愛）を育てるまちづくり



◆ 火野葦平（1907～1960）



火野葦平(本名:玉井勝則)氏は、郷土若松の誇る偉大な作家です。昭和13年に、「糞尿譚（ふんにょうたん）」で第6回芥川賞を受賞、兵士としての経験に基づく「麦と兵隊」「土と兵隊」「花と兵隊」の兵隊3部作はベストセラーになり、一躍国民的作家となりました。

戦後も、自伝的小説「花と龍」「革命前後」などの力作を世に問い、昭和35年(1960年)に亡くなるまでに執筆した単行本は200冊にのぼります。

また、「高塔山火まつり」の発案や郷土芸能・五平太ばやしの作詞を手がけるなど、郷土若松を愛し続けました。

現在、原稿書簡、日記等の遺品は「火野葦平資料館（若松市民会館内）」に展示されるとともに、旧居はこよなく愛した河童にちなみ「河伯洞」と名付けられ公開されています。



【問い合わせ先:総務企画課 TEL 771-3559】

◆ 佐藤慶太郎（1868～1940）



佐藤慶太郎氏は、若松で石炭商を営み「石炭の神様」と呼ばれた人物であり、表裏のない誠実さによって、銀行や取引先のみならず、坑夫からも大きな信頼を得ていました。

事業で築いた私財のほとんどを公のために寄付し、特に、東京府美術館(現在の東京都美術館)の建設費として約100万円(現在の価値で約33億円)を寄付し、日本で初めての常設美術館を誕生させたことで全国的にも有名です。

高塔山の麓にあった私邸は若松市に寄贈され、現在は、佐藤公園として市民の憩いの場所になっています。

【問い合わせ先:総務企画課 TEL 761-4045】

VI 感染症に対応した安心して暮らせる社会の構築

1 感染症対策の推進



◆ 新型コロナウイルス感染症対策中における災害時の避難所運営について

新型コロナウイルス感染症対策中の、災害時の避難所運営における感染拡大の防止対策として、下記の取組を行います。

【十分なスペースの確保】

ホールや和室以外の会議室などを活用し、十分なスペースを確保するとともに、避難者同士の距離を保つ措置を行います。

【健康状態の確認】

避難者の体温測定や体調のヒアリングを行います。

【定期的な消毒・換気】

ドアノブや手すりの消毒、部屋の換気を定期的に行います。

【職員の体制】

避難所へ配置する職員を1名から原則2名以上に増やします。

【問い合わせ先:総務企画課 TEL 761-4045】

